

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑 (ももユニット)		
所在地	熊本県荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	平成21年8月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体施設が医療機関であり、入居者様の健康管理、疾病管理を本人の生活を尊重しながら行っている。急変時の対応もワンコールにて可能。
敷地内に畑があり、理事長自ら耕作されているため、安心安全な無農薬野菜を提供する事が出来る。また、畑の収穫が入居者様の日課の一つを担っている。
環境面では、施設が海側に面しており、夕日がとても素晴らしく景観出来る。また、海沿いの道は散歩道となっている。苑内は昔ながらの家具を配置し、馴染みのある環境づくりに力を入れている。
定期的に研修会を開き、スタッフの知識の向上に努めている。また、地域や家族会との連携を密にし、周辺の方々への認知症、認知症ケアに対する理解を促している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時よりの啓発が地域に浸透し、地域の中での生活は十分に拡充され、地域密着型としての地位が確立している。入居者の高齢化・重度化が進むなか、本人や家族の思いに、医療との連携や看取り介護の勉強会を重ね共通認識で最期まで穏やかな生活を支援している。隣接の医院や法人全体でホームをバックアップする姿勢が入居者、家族、職員へ安心感となって表れ、職員の常に目標を持った取り組みや優しい介護、家族の協力体制等も入居者の本人本位の生活や和やかな生活となって表出されている。職員全員が問題点や課題を見つけ質の向上を図り、理事長の思いである安価で質の高いケアを実践している。運営推進会議と家族会を隔月に開催することが相乗効果となって表れており、問題提起の場としての機能を果たし、ホーム運営に反映されている。音楽療法(琴や太鼓等)等も入居者の笑顔を引き出したり、古民具や昔の農具等が懐かしさを醸し出しているホームである。今年度は近隣の不審火に対応するため特に危機管理に意識を持ったり、人材育成に取組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に暮らす個人としての生活を尊重した理念を掲げ、その実現の援助を行っている。	開設時より地域密着型としての意義や役割を踏まえた基本理念5項目を掲げ、地域の中での暮らしへの思いや入居者本人なりの生活に目を向け、家族の思いも大切に、全職員が理念を明確に理解し、ミーティングを通じて共通認識の強化を図り日々のケアに反映させている。又、事業方針“ホップ ステップ ジャンプ作戦”として、各ユニット毎に実施内容を策定し、職員個々も目標を立て目標達成に取り組む等全員が心を一つに日々のケアに真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方への行事への参加を促し、また地域の活動へ参加し取り組んでいる。	開設時より地域に根ざし開かれたホームとして積極的に地域との交流を展開している。入居者個人での自治会加入、ホームの行事案内や“むつみ苑便り”の公民館への掲示や行事案内の戸別訪問が地域への啓発として浸透し、地域住民の散歩コースでもあるホーム前での立ち話や多くの住民が行事へ参加される等、地域での生活は充実し、入居者の地域の中での暮らしへの思いを家族や多くのボランティアの支援を受けながら地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族を通じて、認知症の理解や認知症ケアにおける理解を図り、面会しやすい環境作りに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の事業所としての役割を意識し、利用者のケアや行事における利用者の反応を報告し、参加者の意見を聞きサービスの向上に努めている。	定例化した運営推進会議はホームの実践や行事、外部評価の取り組み状況等を報告し、活発な意見交換が行われている。隔月毎に運営推進会議と家族会を開催することが相乗効果して表れ、家族会代表も運営推進会議の意見を市議会へ提出する等ホームのサービス向上もさることながら、地域の福祉向上に反映させている。区長から地域住民へ情報を発信されており、ホーム運営に好意的であることも窺われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	訪問時の事業所内の環境や利用者の表情を伝え、認知症ケアの実際を共有し、協力関係をきづいている。	認定調査訪問時の意見交換や認知症キャラバン隊の推進に職員の参加、毎月生活保護受給者の相談等担当者で連携を図っている。	市役所から運営推進会議に課長と他1名が毎回ローテーションを組んで参加し、ホームの状況や入居者の暮らしぶりを確認されており、“むつみ苑”でのケアへの取り組みが地域の認知症ケア増進につながるよう、行政から地域への情報発信に期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解を深めるために職員間での研修を実施し、利用者の状態における対応が困難な場合は他部署の職員間で意見を出し合い身体拘束のないケアを実施している。	身体拘束の弊害を認識し、勉強会で理解を深め、困難事例にはグループ討議により拘束の無いケアを実践している。家族会でも勉強会を行い理解を得ている。入居者個々の意思を見逃さないよう、言動や表情の把握に努め、外出傾向を察知し散歩に出かけたり、所在確認の徹底等により開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修にて学び、利用者の心的ストレスのないケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、利用者の必要に応じて関係者と協議し制度の利用を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と口頭にて理解していただくように説明を行い、疑問や不安に対しては随時返答できる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見の聞き取りや面会時の声掛けに努め、家族や本人の意見・要望を事業所の運営に反映させている。	入居者・家族の思いや意見等をケアに繋げたいと家族とのコミュニケーションに心がけ、本人とは傾聴や寄り添いのケア・関わりの中で把握し、家族の訪問時や電話の相互連絡等家族との信頼関係が構築し何でも申し出られており、ケアへ反映させている。又、運営推進会議と家族会が問題提起の場として十分に機能し、ホーム運営に反映させている。家族会で入居者との接し方の勉強会を開催したり、避難経路の確認等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ごとでの職員の意見交換を行い、主任会議で取り上げ、全部署での共有を図り運営に反映させている。	各ユニットの事業計画を担当者に割り振り成果を見直したり、毎月の全体主任会議で部署毎の意見をもとにした話し合いを行い、ホーム運営し反映させている。職員の頑張りに対する認識や評価がされ、離職も少なく働きがいのある環境が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見や要望の聴取を行い、働きやすい環境作りに努め調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力やスキルに合わせて、内外の研修の実施と参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の事業所間の交流会や勉強会への参加や、事業所内での研修への他事業所への参加の呼びかけを実施している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者個々に応じた関係づくりを行い、本人が安心して生活できる環境作りを本人のペースに合わせて行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や利用者への思いを汲み取り、利用者へのケアに活かしている。また、いつでも意見や要望を言えるように声掛けを行い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時に本人や家族の意思を聞き、入居以前の生活状況を聴取し本人の状態の観察を行いながら、利用者への適切なケアを見極め、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員、利用者同士での相互の支援関係を気付ける環境作りに努め、利用者個々が得意なことや出来る能力を発揮していけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人における家族の役割を尊重し、入居後も協力を得ている。また、利用者と家族の関係の維持に配慮した支援関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の促しや利用者の訪問の支援を行い、馴染みの人や場所への関係の継続を図っている。	家族を通じて入居者のゆかりの人々に来苑を依頼し、面会の祭にはゆっくりと過ごしてもらうよう配慮している。入居者の自宅を訪れ、安心されるまで家の中で過ごしたり、人的・物的両面から入居者を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がともに過ごす環境作りに努め、利用者同士の関係が適切に保たれるような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、認知症に関する相談に応じている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の利用者の表情や訴えに傾聴し、本人の思いや希望に即したケアの実施に努めている。	職員は入居者一人ひとりとゆっくり関わりながら、入居者が求めているものや思いを引き出し、入居者の気持ちに共感しながらケアに当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人・家族からの情報の収集や生活場面での本人の自発的な言動を観察し、本人らしい生活の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活を尊重し、本人の言動を通して心身の現状能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活における必要な援助や本人の思いを理解した介護計画をつくり、本人の表情や家族に対する訴え等からモニタリングしている。	本人・家族の意向を基本とし、日々の現状や変化を詳細な記録に残し、申し送りやカンファレンスで状況の共有を図り、変化に気づいた時には観察期間を設け、プランを見直す必要に応じ家族に状況を説明し現状に即したプランを作成している。「KOMIチャートシステム」を採用し、介護計画の根拠としており、家族の思いや職員の観察の結果が反映されているプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の本人の言動やケアの実践に対する状態や本人の表情を記録し、必要時には柔軟に対応できるような記録の活用に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じた柔軟な支援が提供できるように事業所内で連携し、多機能的な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意思を尊重し、馴染みのある社会資源の活用を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望を尊重し、かかりつけ医の受診を家族の協力を得て支援している。	法人理事長が医師であり、週1回の訪問診療以外にも日常的にホームを訪れ、入居者の横に自然に寄添い会話をしながら、入居者の思いにふれ、介護者に対しても様々な相談や助言を行い、医療面での支援を確立している。本人や家族の希望に応じ、他の医療機関の支援も積極的に行っている。	
31		○看護職との協働			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時の報告や利用者の状態の変化に応じた報告・相談を実施し、利用者のケアを協働して実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関や家族との協議にて、本人の治療を第一に考え、適切な支援を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に家族や本人の意思を尊重し、最期まで本人の望む生き方を支援していく。	入居時の説明の他、常に家族の意向を把握し、医師、家族、ホーム側で話し合い、住み慣れたホームで安らかな終末期を迎えていただきたいと全職員が思いを一つに取組んでいる。看取り指針によりホームでの介護を明確にし、家族より看取り介護同意書を受入れ、看取り介護の勉強会によりレベルアップを図り、法人病院との24時間医療連携やバックアップを受けながら終末期を支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を実施し、急変時や外傷への適切な処置ができるように実践力の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応について理解し、訓練の実施にて、職員各自の担当と優先順位を明確にし、対応できるような体制をとっている。	年3回消防署・業者立会いのもとでの訓練や自衛消防隊を編成し、特に最近では近隣の不審火により防火バケツの設置や夜間のパトロールの強化、非常呼び出し訓練等危機管理に全員が高い意識を持って臨んでいる。家族も緊急連絡網の中の一員として訓練に参加され、自然災害への備蓄や自家水を確認している。	自然災害にも万全の対策が取られており、運営推進会議の中で地域の方々との協力体制強化にホームの持つハード・ソフト両面が地域に貢献できることを視野に話し合いをもっていただきたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの自尊心を理解し、適切な関わりを行い個人のプライバシー保護に努めている。	「その人の心を理解し…」を基本理念の一つとし、入居者のこれまでを大切に、利用者毎に声かけや誘導等工夫したケアを実践している。難聴者に対しても耳元での会話や本人だけに伝わるように心かけ、自尊心が損なわれることの無いようトイレ誘導し、全員が優しい介護に徹している。個人情報の保護やプライバシーの確保について、ミーティングやマニュアル・勉強会を通じて共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人の自己決定の尊重とそれを引き出す声掛けや関わりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活を尊重し、必要に即した支援を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の能力や希望に応じて支援している。また、本人の自主的な行為にはそのことに目を向け、意に沿うような声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫や下準備、後片付けへの参加を促し、個々の力や興味に働きかけている。	無農薬野菜の栽培により安全で旬の野菜を提供し、収穫・配膳・後片付け等出来ることを無理の無い範囲で一緒に取組んでいる。職員も介助しながら一緒に和気藹々と入居者の出来ることには手を出さずゆっくりでも自分で食事をしてもらう等待つケアに心がけている。入居者の希望や季節を感じるメニュー作り等食に力を入れていることが窺われる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食習慣や心身の状態における食事や水分摂取の変動の把握に努め、不足時の対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	安眠できるような環境づくりと日中の活動の支援を行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を個々に応じた支援を実施し、本人の自尊心やプライバシーを損なわないように努めている。	個々の排泄パターンを把握し、早めの声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援している。トイレには暖簾を掛け、声かけや介助時に自尊心やプライバシーを十分に配慮することを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無の把握と利用者の訴えに応じた対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者個々に適した入浴の支援に努め、利用者が入浴を心地よく感じれるように配慮している。	毎日午後から入浴を支援し、発汗や失禁時等必要時のシャワー浴は時間を問わず実施し清潔保持に努めている。入浴拒否者も他の入居者の入浴後の気持ちよい様子を見てもらうことで自然と楽しみにされ進んで入浴されるようになっている。季節風呂(ゆず湯や菖蒲湯等)や入浴剤を使用し、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるような環境づくりと日中の活動の支援を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の把握に努め、変更の際は状態の観察と変化に応じた対応を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が個々の楽しみ事に取り組めるように促したり、興味のあるものや出来ることに取り組めるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や家族の都合に合わせた支援を家族と協働して行っている。	海岸までの散歩や菜園での野菜の収穫を日課とされる入居者、家族や知人への絵手紙を送りに郵便局まで出かける方等本人の希望に応じた外出を支援している。季節毎に花見やこいのぼり見学、気分転換に公園まで出かけたり、毎年全員で大宰府へ参詣する等重度化が進み車椅子利用者もいるなか、家族やボランティアの協力支援により外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の理解の調節を支援し、出来る範囲で本人が金銭を所持できるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や必要に応じて、電話の使用や手紙を書き・出すことを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が心地よく生活できるような環境作りに努め、季節感を醸し出すように花を飾ったり、光や音の不快が生じないように配慮している。	独立した玄関を持つ各ユニットは古民具や人形、古箏等が活かされ、畳のあるリビングにはゆっくりと横になることもでき、入居者や外部からの訪問者にも心和む空間である。、騒音や異臭も無く、西日対策によしずを使用し、有明の海の眺望や潮風が心地良く、昔の農具が回想法として活かされ、懐かしさを醸し出し居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での個々の過ごし方を尊重し、適切な関わりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みを促したり、本人の身体機能や意に沿うような居室の環境整備に努めている。	ベッド、クローゼット、洗面台を備え付け、海・山並み・庭と自然を満喫できる居室である。日常の清掃も徹底し、使い慣れた家具の持ち込みや身体機能に応じたレイアウト等、家族・職員が一緒に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の身体能力に考慮し、本人の自立を引き出し、安全面へ配慮した環境作りを行っている。		

自己評価

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に見えやすい場所に掲げ、職員は理解し実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事などの際には地域にも開放し、参加して頂きながら交流を図っている。区長は2ヶ月1度運営推進会議に参加		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などで交流の機会を図り、認知症理解へ活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題を設け、随時報告、話し合いを行い家族・地域から出た意見を基に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、介護保険申請といった場面を活用し、市町村側との協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し、職員の身体拘束への理解を深め、ケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、職員が虐待への知識と理解を深め、防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要な入居者には、活用していただけるよう個別に対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族と十分な時間をとり疑問・質問などの聞き取りを行い、説明し、理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度家族会を開催し、家族から意見を聞く場を設けている。また、面会の際職員が随時受け付け反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内や申し送り、カンファレンスといった場面で聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望は可能な限り対応し、時間外など発生する場合はスタッフ同士で話し合い業務に支障がないように行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務内での指導、勉強会や研修といった機会を設けて実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会への参加及び定期的な勉強会の開催にて知識の共有に努め、GH連絡会への参加によりネットワーク作りを図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り希望に沿い、主体性を重視し、馴染みの関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現況の継続やサービス利用開始時に、家族と面談を行い、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や本人の状態などから現在必要としているサービスを見極め、デイ利用など他サービス利用時には情報提供など支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度、畑の収穫、下処理など共に行うことで、暮らしを支えあい、また、入居者の方から学ばせてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度家族会を行い、本人について多くの人達で考え合える場を設けている。また、家族には面会や月に1度手紙を書き、近況報告を行う中で信頼関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの物を身の回りにおいたり、面会の際はお茶をだし、ゆっくり話が出来る環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性、位置関係を考えながらソファの位置、食堂の配置を気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後必要に応じて、デイサービス利用を提供したり、必要時病院への紹介をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族とのコミュニケーションに努め、真意を伝えていただくよう努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時面会時などを利用し、出来るだけ多くの情報収集に努め、それによる理解を深めるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	リビングで一緒に過ごしたり、台所からの見守り・訪室などを行い、本人の生活パターンを理解していくようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフの意見を担当者が取りまとめ、プラン作成家族にも面談を行い、意見などを取り入れたプラン作りを実施している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の一日の行動、状態を時間ごとに記録し、その日の入居者の状態に合ったケアを話し合い情報をスタッフ間で共有、実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護、看護、リハビリのスタッフが密に連携を取り合い、本人、家族のニーズに応じたケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる慰問などを積極的に受け入れ、協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回母体施設より、訪問診療を行っており、また家族、本人からの希望や必要な治療などがあれば、応じて他医療機関への支援を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の状態にあわせ、訪問診療時など看護職に相談しながら適切な医療を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が常に安心して治療をうけられるよう、母体施設と情報交換を密にとり、連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には書面と口頭で苑の方針などを説明し、家族の意向も聞きながら看取り介護に対する方針を共有できた家族には同意書にサインをもらい、支援に活かせるようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催し、応急手当や初期対応の方法を学んでいる。また、母体施設とも連携し、対応できる体制作りにも取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、全職員が対応できるようにし、運営推進会議などを活用し、協力体制作りにも取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合った言葉かけを行い、毎日の生活の中で働きかけを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、入居者の希望に沿い、主体性を重視している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の中で入居者のペースを見守り、その方に合った働きかけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みを聞きながら、希望される方には馴染みの美容室を利用して頂いたり、苑内では訪問 理容のサービスを受けられるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓を季節の草花で飾ったり、食事の挨拶、準備、片付けを一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューに工夫を行い、入居者一人ひとりの摂取量や水分量を把握できるようにし、少ない方には捕食やゼリーといった支援を行っている。また、自力摂取が難しい方には母体施設と連携をとり、対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存能力に応じて歯磨き、うがい誘導、義歯の洗浄などの誘導、介助の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めのトイレ誘導声かけ、排泄パターン、残存能力を把握して羞恥心、プライバシーに配慮した声かけや支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者に応じて水分をゼリー状にしたり、とろみをつけ摂取しやすくしている。また、繊維質の多い食事作りを心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に応じて毎日でも入浴が出来るよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やリハビリなどで1日のリズムを作り、体調に合わせて休息や入眠の支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前や薬の内容の確認をし、確実に服薬できるように飲み終わるまで見守っている。また、薬変更時には、母体施設と連携をとり、状態変化の観察、報告などを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、家事を中心とした役割をもっていただき、生きがいへとつなげるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせての外出や家族との外出も本人の体調に合わせて支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも連携を取り合いながら、金銭を持てるように支援している。また、買い物の希望にはその都度対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話を設置し、いつでも使えるような環境作りに努め、また、希望される方には居室に電話を設置できるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングや玄関には昔ながらの家具を配置し、季節の草花、金魚などを飾り、なじみのある音楽も取り入れながら、落ち着いた環境作りに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を工夫し、見守りの出来る環境においてもひとりで過ごせるような環境もあり、また気の合ったもの同士で話せるような雰囲気づくりに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れた家具がもちこまれたり、家族の写真を飾ったりしながら落ち着いた環境作りに努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置、本人が居室をわかりやすいように、戸に写真を飾ったり、浴室、トイレなどにも表示をし、本人が混乱しないような環境作りを工夫している		

自己評価

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、全職員が理念を共有し、実践に向けた取り組みをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に会話ができるように、日常的に交流している。また、行事の際には地域の人々の参加を働きかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等を通して、認知症の方の理解や支援方法を地域の方に向けて活かせるように支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間に6回の運営推進会議で、行事の報告や計画、サービスの実際や評価への取り組み状況について報告し、意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査等での市職員の訪問時に、事業所の情報提供を行い、共にサービスの向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学んで理解し、見過ごすことなくケアができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の必要性に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族との面談を行い、書面を使用した説明を行い、その書面を渡している。その後、疑問等に応じるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの意見や要望があれば、家族会や運営推進会議で話し合う機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で意見を出し合い、それを提案する場をつくり、その後につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の個々の実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場なりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して内外の研修、勉強会を積極的に受ける機会を確保している。働きながら学べるような支援が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGHでの交流会や勉強会に参加し、それを他職員への報告し、その後のサービスの向上に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がどのような状況にあるのかを理解するために、本人の話を傾聴し顔なじみの関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から本人がどのような状況にあるのか、困っていること、不安なこと求めていること等の情報収集を行い、本人や家族との信頼関係を築けるようなケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が現在必要としていることを見極め、他のサービスを含めた総合的な支援の実施に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していることを常に念頭に置き、入居者一人ひとりを人生の先輩として尊敬し、互いに支えあうより良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会での関わりを密にし、互いに納得したうえで、本人を支えていけるように信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との会話の中で思い出話や馴染みの場所等の話をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間関係づくりには注意を払い、互いに良好な関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても行事や家族会への参加の働きかけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討するように心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と情報を共有することで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の情報を共有することで、暮らしの現状を総合的に判断し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、職員間で事前に話し合い、希望、意見、アイデアを組み込んだ介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、申し送りノートや口頭等での情報の共有化を図り、日々の状態の変化に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後、本人や家族にとってより良いサービスが提供できるように本人の状態や家族の要望に応じて考慮し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の必要に応じて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にしている。異変時には母体施設での医療が受けられるような体制になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の看護職員とも顔なじみであり、安心して看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は出来る限り面会等の支援を行い、馴染みの関係の継続に努めている。医療機関との連携により、早期の退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	住み慣れたホームでの終末期ケアを家族や本人の希望に沿って実施している。安らかな終末を迎えられるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応に備えて、勉強会において学び実践できるように練習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の連絡網の作成や対応方法等の訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人ひとりの人格を尊重した言葉かけやその時の心情、思いを汲み取ることに配慮して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるような声掛けや対応に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の性格やペースを把握して本人の希望を尊重したケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の個性を尊重した支援を行い、利用者の希望に沿った理美容の利用の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、入居者の嗜好や咀嚼・嚥下機能に適した食事の提供に努めている。また、後片付けへの協力も促している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌や申し送りノート、口頭での情報の共有化を図り、個々の状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、個々の能力に合わせて適切な支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや能力を把握し、気持ちよく排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便を把握し、必要な方には食事の工夫や牛乳の提供、運動の実施を促し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせていつでも好きな時に入浴を楽しめるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや各居室において、いつでも落ち着いて休めるような環境に十分配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体施設との連携を密にし、服薬内容の把握や変更時の本人の心身の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日楽しく過ごしていただけるように一人ひとりの楽しみ事への取り組みを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に合わせて外気浴や野菜の収穫、自然に触れる機会をつくり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じて金銭の所持や使用の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由なやり取りを行っている。必要な方には仲介役となり、できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には人形や花、懐かしい家具を配置し、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろいで話ができるように、リビングにソファを置き、環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具の持ち込みを支援し、本人の落ち着ける居室環境作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに配慮し、利用者が安全に移動できる室内環境が整備されている。		